

# 【巻頭特集】 太鼓で伝える義民の心 郡上宝暦義民太鼓



増税に怒る義民



口説をする曾我会長



息をのむ駕籠訴の瞬間



力を合わせて一揆を興す

ぴんと張り詰めた緊張。宝暦義民が訴えを起こした時の、息がつまるような一瞬を表現する「郡上宝暦義民太鼓」が雄叫びとともに轟く。「郡上一揆」は五年以上に渡って、農民達が自らの意思を伝えるために、粘り強く戦った騒動。「義民」と呼ばれる一揆参加者達の功績を後世に伝えるために、「郡上宝暦義民太鼓」は音を響かせる。

## 藩を動かした農民の力 郡上一揆

郡上藩の増税に反対して、農民達が起こした騒動「郡上一揆」は、宝暦四年、郡上藩が藩内の庄屋を集めて増税を言い渡したことから始まる。当時の郡上藩主・金森家は、元禄五年（二六九二年）、第五代将軍徳川綱吉の命

令で、出羽国上山に所替えとなり、元禄十年、再び郡上へ移封を命じられた。移封は今で言う異動。五年間で二度の移封を命じられた郡上藩の財政は緊迫。その上、延享四年（七四七年）、時の藩主・金森頼錦は、幕閣エリートの出陣とされる役職、奏者の番に任命される。交際費などの出費がかさむ職でもあったため、領民へ臨時の徴税などを再三に渡って課した。領民の不満が募っていたところへ、課税法を定免法から検見取法へ変更するという増税の通告が加わり、揆へとつながる。定免法は、毎年一定の年貢を納める方式だが、検見取法は、その年の収穫に応じて税額が決まられ、年貢を最大限に取ることができるとある。

農民達は、傘連判状（傘を繋いだ判状）の署名をして、藩に対し増税への反対意志を突きつけた。農民の勢いに押された家老は要求を受入れ、騒動は農民の勝利で終わったかに見えた。しかし、藩は舞台を現在の笠松町へ移し、農民の代表である庄屋を呼び出し、検見取法を受け入れさせた。

怒った農民達のうち四十人が、江戸へ出て藩の江戸屋敷に嘆願書を提出。しかし願いは伝わることなく、捕らえられ。農民達は意を決し、直接幕府へ訴えるため駕籠訴（かごご）を決定する。江戸城へ向かう老中・酒井忠奇の行列に、五人の農民が「御訴訟、御訴訟」と叫び飛び込んだ。その時の農民達の心境は「私たちは行列を見て肝をつぶし、足のすくむ思いだったが、呪文を唱え、腹を据え、体中の力をふりしほって、身も命も投げ捨てて駕籠をめぐりて飛び込んだ」と御訴訟書写に残る。それでも、要求は聞き入れられず、農民は幕府の目安箱へ訴える「箱訴」を行う。これにより、ようやく幕府は訴訟をし、きびしい吟味の結果、金森藩は取り潰し、関係役人はすべて処断という、江戸時代の大逆においなり、百姓側の勝利となった。農民側もこの一揆により、駕籠訴、箱訴の当事者は極刑、ほか獄門四人、死罪十人、獄死十九人の犠牲を払った。

※参考資料 再現日本史第6号 発行 講談社

## 宝暦義民の魂を 後世へ伝える 郡上宝暦義民太鼓

「郡上宝暦義民太鼓」は、ミュージカル太鼓だ。郡上一揆で起こった出来事を四場演に分けて、太鼓と踊り、口説で演じる。昭和五十年、十四人の有志が、日本古来の楽器である太鼓で、義民の功績を伝えたいと始めた。メンバーには、郡上宝暦義民太鼓保存会前会長の故曾我信一さん、当時、歴史教諭だった故坪井次郎さんや、音楽教諭の故羽土治一さんが在籍。太鼓の楽譜から、口説のせりふ、踊りの振り付け、衣装、ステージ演出まで、会員が得意を生かし、力を出し合い作り上げた。喜怒哀楽を表す面も会員の自作。発足当時から三十七年間保存会に受け継がれる。

「初めの頃は、音で迷惑をかけるといけないと思い、油坂スキー場の山小屋を借りて練習をしていました。町のイベントで披露するうちに認められて、昭和五十七年、郡上芸能伝承センターと呼ばれる練習場を作ってくださいました。私たちの太鼓は、ソクソクと感動が伝わる太鼓。心をついて戦った郡上一揆の精神を受け継ぎ、義民の徳を偲び、功績を後世に伝えるため、義民の気持ちになつて太鼓を打っています」と話す郡上宝暦義民太鼓保存会会長の曾我孫治さん。七十六歳の曾我さんは、現在会員三十人の指導役。二十歳から四十歳代の後



悲しみを乗り越え、戦うこと5年

継者に技術指導を行う。「太鼓を通じて、郡上の歴史を多くの人に伝えるのが目的です。北は北海道から南は九州まで、日本全国で郡上宝暦義民太鼓の公演をしました。アジア芸術祭にも参加させていただき、岐阜県文化芸術賞も受賞。各地で公演できることに感謝します。郡上市内で演じる時の感動はひとさわぐさいます」と曾我さんは微笑す。

曾我さんの活動は「郡上宝暦義民太鼓」だけに留まらない。白鳥小学校のふるさと学習の一環で、五年生に「祝い餅つき太鼓」を指導している。「祝い餅つき太鼓」は、一揆が終わわり、里に平和が戻っ

た喜びを餅つきという動作で表現した曲。小学生は太鼓、しの笛、三味線、鐘、竹、踊りなどで喜びを表現。各担当パートの練習に励み、「地元の小中学生達にも、義民の心を知ってほしい」と思い作った曲です。仲間音を聞きつづけた義民の精神は同じです。音の助け合いを通じて、人の助け合いを学んでほしいと思ひ、十七年間非常勤講師の仕事させてくださいたいです」とことも達にも義民の心が伝わることを願う。

太鼓の響きを体で感じながら、郡上宝暦義民に思いを馳せたい。

取材協力 曾我孫治さん 白鳥観光協会



願いが届き、おどる義民

## 今後の公演予定 「郡上宝暦義民太鼓」公演

5月3日・4日	白鳥春祭りにて「祝い餅つき太鼓」公演
7月21日	白鳥おどり発祥祭 19:30~(約30分)
8月12日・14日・15日	白鳥おどり徹夜踊り 20:00~(約30分)

問合せ:郡上宝暦義民太鼓保存会 0575-82-2608(曾我さん)  
※保存会入会希望者、同時受付



宝暦義民太鼓を聞きにとくれ



郡上宝暦義民太鼓保存会会長 曾我孫治さん